

取材先	「NPO法人フードバンク山口（下関地区）」 「Live-ingリビング下関（フードバンク）」		
企画名	「いのちの関門ネッツ」 生活困窮者の食と住まいを考える～制度のはざまをどう支えるか～		
備考			
取材日	2024年12月7日(土) 天候[晴れ] [ 14:00~16:00 ]	取材地	海峡メッセ下関8階大会議室801号室

レポート

北九州などとともに協働しながら、生活困窮者支援活動などに直接関わる方々が緩やかなセーフティネットとして立ち上げた「いのちの関門ネッツ」（中井代表）と共に「NPO法人フードバンク山口（下関地区）」、「Live-ingリビング下関（フードバンク）」も活動しています。

北部地域包括支援センター 福永センター長の司会の元に集結したパネリストは、緊急食糧要請支援をされている「NPO法人フードバンク山口（下関地区）」 大城代表、「Live-ingリビング下関（フードバンク）」畑尾代表、居住支援をされている「株式会社ARCH」橋本代表、一時生活支援をされている「NPO法人抱僕」 田口氏、その方の課題にも一緒に向き合っていく伴走支援をされている「こども食堂ジョイアスキッチン」近藤代表の5名でした。

本来なら、機能すべき地域福祉が対応できなかった社会的に擁護を要する人々をそれぞれの立場で手を差し伸べ支援を続けています。公的制度では守る事が難しい狭間にいる生活困窮者を救う為に日々奔走していらっしゃるようですが、自立支援を促していくには行政と連携していかなければ体制的ななかなか厳しい点もあるようです。ある日突然、私たちの生活も災害などにより、同じような状況に陥る可能性は誰にしもあります。誰にも相談できず、独り困窮に耐え続けている方々が増えていく今後の社会に、「NPO法人抱僕」が目標に掲げていらっしゃる「『家族』の機能を社会的な仕組みに変えていく」活動が広がっていくことを切に願います。

状況写真



畑尾代表  
(Live-ingリビング下関)



山口(下関地区)大城代表  
フードバンク



←右より

- ・「いのちの関門ネッツ」中井代表
- ・「抱僕」田口氏
- ・「こども食堂ジョイアスキッチン」近藤代表
- ・「北部地域包括支援センター」福永センター長
- ・「(株)ARCH」橋本代表



会場の様子

